「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」誕生！

北川　博道

県内 48 年ぶりの国天然記念物誕生！

昨年１１月、国の文化審議会は文部科学大臣宛てに「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」を国天然記念物に指定するよう、答申を行いました。その際、新聞各紙でも大きく取り上げられ、目にされた方も多いことでしょう。そして３月１日、新たな国天然記念物として指定されました。

さて、この「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」、少々小難しい名前ですが、内容は、当館所蔵の化石標本 9 件と、秩父盆地に点在する露頭 6 件が同時に指定されました。埼玉県内に位置する天然記念物としては「平林寺境内林」（昭和 43 年指定）以来 48 年ぶりの指定であり、地質分野の天然記念物としては「三波石峡」（昭和 32 年指定）以来なんと、59 年ぶりの指定となります。そもそも、国天然記念物として、博物館等に所蔵される化石標本が指定されるのは、1975 年（昭和 50 年）指定の「歌津館崎の魚竜化石産地及び魚竜化石」、1977 年（昭和 52 年）指定の「エゾミカサリュウ」以来 39 年ぶり、全国でも 3 例目となります。

3 つの全国初！

上記のように現在までに指定されている化石標本はいずれも中生代の海棲爬虫類でした。１）新生代の化石である哺乳類化石の指定は今回が初めてとなります。また、２）パレオパラドキシアを中心とした化石群としての指定も初めてです。何よりも、３）他の地層との全国初の複合型天然記念物として、今、全国から注目されています。というのも、通常化石標本は、化石とその産地のセット指定が基本となっています。今回の指定では、パレオパラドキシア大野原標本の産地こそ含まれていますが、指定された化石群とは直接関係のない露頭から構成されています。これは、今回の指定が「古秩父湾」というキーワードで関連づけられているためです。

古秩父湾の盛衰と化石群

現在の日本列島は、約 2000 万年前から 1500 万年前の間に、大陸からはがれるようにして移動して誕生しました。秩父の地層はまさにこの時期に堆積したもので、そこから見つかる化石生物は、日本列島に進出した最初期の生物相を反映しているといえます。この時、秩父に広がっていた海を「古秩父湾」と呼び、その海が誕生してから、浅い海になったり、深い海になったりした、いわゆる海の盛衰を示す地層をこの度、古秩父湾堆積層と命名しました。そのような海で生きていた化石生物達もまた、海の盛衰に呼応するものでした。一見関係のないような地層と化石は、密接にリンクしているのです。

近年、秩父盆地の地層の形成過程は、関東平野の地下地質と密接な関係にあることがわかってきました。関東平野の数キロ下にある地層を秩父では、実際に目で見ることができるのです。そして、それは日本列島の形成過程を知るうえで多くの事を教えてくれます。本指定内容は、日本列島の形成や、日本の生物相の形成過程を知るうえで重要なため、国天然記念物に指定されたのです。

（きたがわ　ひろみち・学芸員）